



# NEWS LETTER かながわ

2022年度第1号(通巻第31号)

2022年11月 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail: jacdpkanagawa.kouhou@gmail.com

With コロナの観点から、今年度の神奈川支部の活動も、支部総会、第1・2回資格更新研修会全てをWeb開催としましたが、今回のニュースレターは、2022年度第1回資格更新研修会の報告を中心にお届けいたします。

## 巻頭言

「バトンタッチ」 前支部長 蘭牟田洋美

神奈川支部会員のみなさま、コロナ禍での支部運営にご協力を賜り、誠にありがとうございました。ここ2年間はオンライン上のやりとりとなり、みなさまには大変なご苦勞をおかけしました。それと同時に、当時の神奈川支部の役員の方々には想像を超える負担をかけました。ですが、誰一人欠けることなく今回の非常事態に正面から向き合い、研修会や情報発信などに新たな方法にてチャレンジし続けてくださいました。また、会員のみなさまがオンラインにて支部総会、研修会へご出席いただけましたことがどれほど役員の励みとなったかわかりません。この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。さて、本年6月に武部新支部長に無事バトンが渡すことができました。課題も詰まったバトンです。武部支部長、宜しくお願いします。最後になりましたが、会員の皆様におかれましては引き続き神奈川支部にご支援ご協力の程、お願い申し上げます。

「学び続ける大切さ」 支部長 武部正明

日本臨床発達心理士会神奈川支部が創設されて約15年が経過し、私は5人目の支部長に就任させていただくこととなりました。平均すると約3年おきに新体制となっている計算となり、新陳代謝が良いとも言えますし、支部活動の継続性や蓄積という点では課題があるとも言えるのかもしれませんが。歴代の支部長の先生方は、神奈川支部の地域性や会員の職域、役員の方への敬意をもって重責にあたってこられました。私にこの重責を果たせるかと悩む日々ですが、幸い幹事・副支部長、事務局長のお二人をはじめ、素晴らしい役員の方々と一緒にできることに感謝しながら取り組んで参ります。

私事で恐縮ですが、今年度から大学に着任し、障害児者支援や高齢者支援等発達臨床や臨床研究に関心のある学生たちと一緒に勉強する機会に恵まれています。学生からの新鮮な視点での意見や質問に、学ぶべきことの多さを再認識する毎日です。臨床にも理論にも真摯に向き合う姿勢は私たち臨床発達心理士にこそ必要なことであるとも実感しております。支部会員の皆様といっしょに柔らかくアタマで「学ぶ機会」を少しでも多く提供していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 神奈川支部研修会報告



2022年9月25日(日)に、2022年度第1回資格更新研修会をオンラインで実施しました。講師の先生のお話は、具体的で大変有意義な内容でしたので、ご報告いたします。

### 講演会

#### ○「知っておきたい セクシュアル・マイノリティの基礎知識」

講師：藤山新氏（東京都立大学ダイバーシティ推進室 特任研究員）

セクシュアル・マイノリティとは、「さまざまな人の性のあり方の中で、「性別二元論」および「異性愛主義」に当てはまらないようなあり方を言います。

セクシュアル・マイノリティを理解するための視点として、性を構成する4つの側面「生物学的性別」「性自認」「性表現」「性指向」を示していただきました。人間の性は男性・女性の二つに明確に分かれるのではなく、4つの側面に分解して、それぞれを数値線のようなイメージで見ることで、自分はどうかだろう？と振り返ってみると、そもそも人の性のあり方は、一人ひとり異なるものであることが理解されます。「性の多様性」は、セクシュアル・マイノリティ当事者のことだけを言っているのではなく、私たち一人ひとりのこととして考えるべきであるということです。

セクシュアル・マイノリティ当事者の割合は、人口の3~8%程度と推測されます。外からは見えないから分からない、見ただけでは分からない、声すら挙げにくいのがマイノリティであるため、まだ見ぬ当事者が声をあげられるような環境をつくるための取組を行うことが必要と指摘されました。

昨年開催された、東京オリンピック・パラリンピックでは何があったのか、幾つかの事例を通してスポーツ場面でのセクシャルマイノリティの現状を知りました。当事者アスリートの参加が前回のオリンピックでは80名、東京オリンピックでは当事者アスリートが180名を超えたそうです。日本では一部の女性選手がカミングアウトをはじめていますが、男性選手からはそうした動きがみられません。「多様性」という言葉が広がる一方で、スポーツの場面でも社会面でも、当事者の人権保障が進んでいない状態にあります。

“見えない”、“マイノリティ”に対する支援、合理的配慮は対象を限らず必要とする方に届けていきたい、と思えるお話でした。

今回、支部としては初めてオンライン研修の中でグループディスカッションの時間を設けました。20分間という限られた時間の中ではありましたが、当事者から相談を受けたことがあった場合に心がけること、気をつけること、意見交換の他に、簡単な自己紹介の時間も取り、会員同士の交流の時間も得ることができ、有意義な時間となりました。

東京都立大学の対応ガイドライン、日本スポーツ協会のプロジェクトについては是非ホームページをご覧ください。

(研修担当 大川順子)

## アンケート結果

アンケートへのご協力ありがとうございました。

ご意見・ご感想の一部をご紹介します。

### ■研修の内容について

- ・藤山先生のお話、とてもよかったです。支援者としての在り方を、先生のお姿から学ぶことができました。
- ・大変勉強になりました。セクシャルマイノリティの勉強会には初めて参加しましたが、実際に支援に携わっていらっしゃる先生からのお話は大変に貴重なものだったと思います。とても分かりやすかったです。
- ・SOGI という用語は知りませんでした。また、数直線で4つの側面を考えることは、とてもわかりやすく、理解を得られやすいと思いました。
- ・セクシャルマイノリティについて知識の少ない人にもよくわかるようにお話ししていただき大変勉強になりました。今後の臨床だけでなく、自身の生活の中でも生かしていきたいと思います。
- ・先生の語り口が非常に理解しやすく、言葉の選び方も大変勉強になりました。自分が気付かないうちに誰かを傷つけてしまっていたこともあったのかも…と過去を振り返って反省しましたし、そういった無自覚に自覚的になることの重要性を改めて感じました。
- ・性に関連する悩みについて相談をお受けする機会が少しずつ増えているため、とてもありがたく拝聴させていただきました。4つの側面と、それには幅があること、変化していくものであるという話がとてもしっかりきて、関わっているケースをしっかり振り返りたいと思いました。

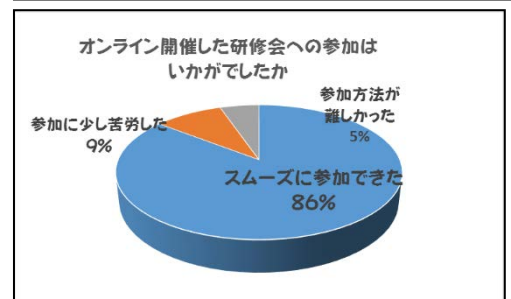
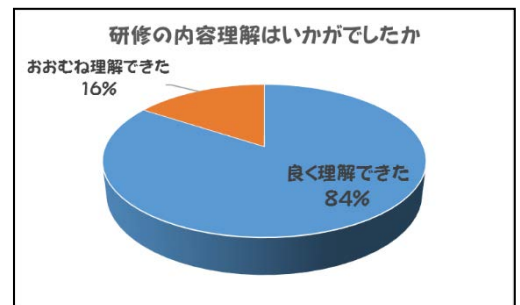
### ■運営面について

- ・講演前から分かりやすく画面に提示してくださっていたので、事前に流れを確認することができました。
- ・グループワークは概ねスムーズでしたが、Google Formsに記入しながらの討論がやや技術がいると思いました。自分でも慣れていきたいと思います。
- ・グループ討議自体はよかったと思うのですが、マイクやビデオの使用をする場合は、研修案内で明記していただけるとありがたいです。

### ■今後の神奈川支部主催研修会について

- ・今後もグループでの話し合いの機会を設けていただけると有難いです。
- ・違う職種の方の臨床発達心理士同士で話し合う機会は大変貴重でした。
- ・出来れば対面研修が希望です。リアル感が違うので。
- ・オンラインでなく早くコロナが終息方向に向かい対面の研修会が待ち遠しいです。
- ・今回のテーマもそうですが、社会の姿を捉えた多様な企画を楽しみにしております。

～今後の研修会テーマの希望等を含め、貴重なご意見をありがとうございました。今後の研修会に生かしていきたいです。有意義な研修会開催のため、ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。



(研修担当 高橋真美)

## 新役員「自己紹介＋職場紹介」



### 会計 佐藤久美（愛川町教育委員会）

今年度より、会計を務めさせていただくことになりました佐藤久美と申します。昨年度まで、研修会では、支部役員の方のお世話になっていましたが、支部の他の活動については存じ上げずにおりました。役員の方々に一から教えていただくようなスタートになっているのですが、支部活動に少しでも貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、現在、愛川町の教育委員会所属のスクールカウンセラーをしています。厚木市の公立小学校の教諭を長年務めた後、スクールカウンセラーや、東京都の特別支援教室巡回相談心理士、横浜にある私設の心理相談室でのカウンセラーなど、仕事を掛け持ちするようになって4年になります。

スクールカウンセラーをしている愛川町は、神奈川県の方の北の方に位置する、人口4万人くらいの小さな町です。緑の多い、お水のおいしい自然豊かな町ですが、中心部には、大きな内陸工業団地があり、多くの外国の方たちも働いています。小学校の中には、児童数の2割近くが外国につながるお子さんの在籍しているところもあり、国際色も豊かです。

そのため、スクールカウンセラーには、先生や保護者の方から「ことばの問題ですか？発達の問題ですか？」と持ちかけられる相談も少なくありません。そういった子どもたちの困り感の背景は、実に様々で、子どもの立場に立った、丁寧なアセスメントと支援方法などの提案を心掛けるようにしています。また、外国につながる子どもたちの保護者との面談では、通訳を交えて行うことも多く、学校関係者との一層の連携が求められていると感じています。これからも微力ながら、子どもたちの心の成長のお手伝いをしていきたいと思っています。

### 研修担当 大川順子（相模原市立療育センター）

はじめまして！今年度より、研修担当を務めさせて頂くことになりました大川順子と申します。保育士として、相模原市の保育園、福祉型児童発達支援センター、療育相談部門を経て、現在は療育センターに勤務しています。至らぬ点もあるかと思いますが、精一杯務めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

相模原市立療育センター「陽光園」は、JR相模原駅からバスで約15分のところに位置しています。発達や障害に関する相談や自立と社会参加のための援助を行うとともに、家庭と関係機関等と連携を図りながら、総合的な支援を行うことを目的に設置されました。

「陽光園」には、発達や障害に関わる相談を行う「療育相談室」、児童発達支援及び治療を行う「医療型児童発達支援センター」、発達障害支援に関する専門機関である「発達障害支援センター」があります。「陽光園」では、障害児や保護者に対する直接的な支援だけではなく、子育てに関係する機関です。

保育園、幼稚園、こども園に対して機関コンサルテーションとしての巡回訪問や“えらべるサポート”と称して、研修活動等を行っています。また、発達障害者への理解促進を目的として啓発活動として、世界自閉症啓発デー（毎年4月2日）及び発達障害啓発週間（毎年4月2日から8日）における関連した講演会の開催や図書館との協働事業、市役所へ横断幕の掲示、ブルグズの作成やブルーライトアップなどを実施しています。これからも、社会の変化に伴う多様なニーズに応えられるように、今後も努力していきたいと思っております。「陽光園」の取り組みにつきましては、ホームページにも掲載しております。是非、ご覧ください。

[https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/shisetsu/hoken\\_fukushi/fukushi/1002835.html](https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/shisetsu/hoken_fukushi/fukushi/1002835.html)

## 研修担当 山本直子（逗子市立久木小学校）

今年度より、研修担当を務めさせて頂くことになりました山本直子と申します。私は、逗子市立久木小学校通級指導教室ひさぎ（通称しおさい教室）の教員として勤めています。今までいろいろな研修で勉強させていただいてきたので、これからは支部の研修担当として少しでも皆様のお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

逗子市には小学校5校、中学校3校がありますが、そのうち2校の小学校に通級指導教室が設置されています。本校の通級指導教室はことばの教室とし1970年に開設されました。構音・吃音・難聴・言語発達遅滞などのことばの問題を主訴とする児童だけでなく、発達の偏りから支援を必要とする児童も多く通級するようになり、今では通級児童の半分以上を占めています。現在約60名の児童を4名の教員が担当しています。

通級児童の多くは、幼児期に子ども発達支援センターなどで療育や相談を受けてきて、普通級に進学するに際し引き続き支援を受けたいと入級を希望してきます。また、入学後、学級担任等から通級を紹介されて年度途中に入級する児童もいます。

通級指導教室では児童のニーズに合わせて、構音指導・言語指導・コミュニケーション指導等を個別又は少人数グループで行っています。児童が安心して自分を表現し、やったらできた、わかったという体験を重ねられるよう、教材や活動を工夫しています。また、保護者への支援、そして在籍校の担任やコーディネーター・巡回スクールカウンセラーなどとの連携を通して、児童を取り巻く環境調整を図り、自信・意欲が育つよう支援しています。

通級児童以外にも、学級担任から気になる児童についてのコンサルテーションの依頼があれば教室に赴き、授業観察後フィードバックを行います。また、低学年の学級担任と一緒に読みのつまづきを早期に支援する取り組みも行っています。

通級は学校内にあるため、児童の学級での様子を把握しやすく、担任とも連携しやすい点がメリットの一つとしてあります。通級で力をつけた子どもたちが学級で力を発揮し、生き生きと生活してほしいと私たちは願って日々指導を行っています。

## お知らせ



### ■ 神奈川支部 2022 年度 第 2 回資格更新研修会(予定)

- 日 時：2023 年2月 23 日(木・祝) 10:00~13:00【1ポイント】
- 内 容：<講演会> 発達障害のライフステージを見据えた早期支援—長期追跡調査から
- 講 師：岩佐光章 氏 横浜市西部地域療育センター長、医師
- Zoom によるオンライン開催、参加費：無料

※ 詳細が決まりましたら、神奈川支部のホームページや SOLTII (支部会員のみ) でお知らせいたします。

### ■ ニュースレターの配信について

ニュースレターの配信は、神奈川支部の Web サイトからのみにさせて頂いており、郵送はしておりません。今回もホームページにアップした後、SOLTII にて「アップしました」と配信させて頂きました。お近くの会員の方でご存じない方がいらっしゃいましたら、是非神奈川支部のホームページをご覧くださいませよう、お知らせください。

#### <編集後記>

With コロナで日常生活を送ることに次第に慣れてきたように感じつつも、コロナ禍の支部運営に関しましては、役員一同迷いながらなんとか力を合わせて運営している状況ですが、会員の皆様はどのようにお感じでしょうか。

神奈川支部の広報活動に関しましても、先日会員の皆さまにアンケートを実施させていただきましたように、皆様のお役に立つ広報活動を工夫していこうと考えているところです。そのような中、今回のニュースレターは、第 1 回資格更新研修会の報告と新支部長をはじめとする新役員のご挨拶を中心にお届けいたしました。

今回のニュースレターをお読みになったの感想や、今回のニュースレターをお読みになって、先日のアンケートに追加修正したいことなどありましたら、広報担当宛てメールアドレス(jacdpanagawa.kouhou@gmail.com)にご連絡をお願いいたします。

(広報担当 橋爪 美津子・須田恭平)